

2 B 3 - 17

漢方薬による小児難治性てんかんの治療

関西医科大学男山病院小児科^{*1}関西医科大学小児科^{*2}

○杉本健郎^{*1,2} ○安原昭博^{*1,2} 西田直樹^{*1}
 禹 満^{*2} 村上貴孝^{*2} 吉田寛子^{*2}
 小林陽之助^{*2}

わが国のてんかんに対する漢方療法は、1960年代に相見が柴胡桂枝湯の相見処方を用い、約2割の症例に著効した報告から始まる。最近、既存の抗痙攣剤の長期服用による副作用が問題になってきたことと、菅谷らによる漢方薬の抗けいれん作用のメカニズムが解明されるつれ、てんかんに対する漢方薬投与が注目されるようになってきた。

今回、我々はこれまでに抗痙攣作用が確認されている柴胡桂枝湯加芍薬と成分がほぼ同じである小柴胡湯 (TJ-9) + 小建中湯 (TJ-99) を難治性てんかんに投与したので報告する。

方法と対象：関西医大男山病院小児科と関西医大小児科の神経外来に通院中の2歳から16歳の16名に1989年12月からTJ-9 (5.0) と TJ-99 (10.0) を分2で、それぞれ投与中の抗痙攣剤に加え投与した。投与は原則として食前に両薬剤を混合し内服した。対象のてんかん発作型は全例が複雑部分発作で、大塚 (1987) らの難治性てんかんの定義を満たす症例であった。

結果：15例中2例は味の点で持続投与が不可能であった。今回は投与後3か月以上経過した9例についてその投与効果を検討した。投与後けいれん発作がほとんど消失したのが2例、発作数が明らかに減少したのが3例で、4例は不変であった。有効性は1週間目からあらわれる症例から3か月まで徐々に発作が減少する症例まであり、その効果発現は一定ではなかった。なお3か月毎に行った血液検査では副作用は見られなかった。その他、眠気やふらつきなどもなかった。

結論：対象症例が少ないが、過半数の難治性てんかんに有効であった点から、小児のてんかんの薬物治療に比較的安全な漢方薬がもっと試みられるべきと考える。

2 B 3 - 18

BECCT の Rolandic discharge に対する clonazepam の効果

順天堂大学小児科 順天堂浦安病院小児科^{*}

○高橋系一 齊藤昌宏 許 慶子 佐藤保子
 新島新一 多田英世 藪田敬次郎 高橋 寛^{*}
 ○大塚親哉^{*}

(目的) BECCT と当初診断した18例の症例に clonazepam (CZP) を投与し、その臨床効果と Rolandic discharge に対する抑制効果を検討した。

(対象と方法) 対象は男7例、女11例の計18例で、初発年齢は5~10才で、BECCTの中核群と考えられる症例である。CZPの単剤投与例は7例、併用例は11例であり、単剤例のうち4例は初発から、2例と1例がそれまでのPB、CBZに変えて投与し、併用例ではVPAとの併用が7例、CBZとが6例、PBとが1例で、VPAとCBZの2剤併用が3例あった。CZPの投与量は単剤例0.75-1.5mg/day (平均0.046mg/kg/day)、併用例0.5-2.0mg/day (平均0.046mg/kg/day) とほぼ同量であった。血中濃度は各々6.7-21ng/mlと3.0-22.7ng/mlとCZPの投与量が少ない為に低値を示した。

(結果) BECCT に対する CZP の臨床効果は、単剤例で7例中6例に発作消失が見られ、うち1例は投薬中止、1例はその後の副作用の為にCBZへ変更した。発作が継続した症例は1例であった。併用例の発作消失例は11例中7例で、うち1例は眠気のためCBZ単剤に、1例はクモ膜嚢胞で短期投与の症例であった。無効例は4例あり、うち2例はその後の臨床発作よりCPS、SPSと考えられた。

RD に対する CZP の効果は、単剤例は7例のうち5例にRDの消失が見られ、継続した2例においてもRDの振幅、頻度の減少が見られた。併用例11例のうち消失したのは5例であり、継続例が6例あったが、このうち2例では振幅、頻度の減少が見られ、1例でRDの再出現が見られ、2例はRDとは考えにくい上記のCPS、SPSの症例であった。

(結論) 1) BECCT の RD に対して CZP の効果は明らかで、特に単剤例では70%に及んだ。

2) CZP の無効例では BECCT の診断に再考を要する症例の混在が見られ、CZP の投与は RD の診断を考える上にも有用と思われた。